



営農NEWS



抑制トマト栽培ではコナジラミ類やアザミウマ類など各種害虫の防除に努めましょう

抑制トマト栽培では、コナジラミ類、アザミウマ類、アブラムシ類、ハモグリバエ類のほか、ハダニ類やトマトサビダニなどの微小害虫、さらにオオタバコガやハスモンヨトウなどが寄生して加害します。このうち、現在、トマトで最も重要病害の黄化葉巻病を媒介するタバココナジラミや黄化えそ病を媒介するアザミウマ、黄化病を媒介するコナジラミ、各種モザイク病を媒介するアブラムシなどが発生すると、これら害虫の直接的な吸汁、食害に加えて、各種ウイルス病の発生も懸念されます。また、ハダニ類やトマトサビダニも発見が難しく、多発生してからでは防除が困難となります。さらに、オオタバコガは茎や果実に食入加害し、ハスモンヨトウは主に葉を食害して減収します。

今年の梅雨明け後は高温少雨の日が続く、害虫の発生に適する条件ですので、寄生虫の早期発見に努めるとともに、予防にも重点を置いて、耕種的や物理的防除と薬剤防除を組み合わせた総合防除で対応する必要があります。

＜防除対策のポイント＞

害虫を防除する基本としては、栽培施設に害虫を①入れない、②そこで増殖させないことが重要です。①施設に入れられない対策として、出入口や天窗・側窓など開口部に防虫ネット（タバココナジラミには目合い0.4mm）を設置します。また、施設内外に害虫の飛来源やウイルスの保毒源となる雑草等があれば、常に除草を徹底してください。

②増殖させない対策としては、常に作物を観察して害虫の早期発見に努め、寄生が確認されれば直ちに薬剤防除を行います。また、ウイルス等の発病株があれば早期に抜き取り、近くに放置せず腐熟するなど適切に処分します。なお、コナジラミ類、アザミウマ類、アブラムシ類など微小害虫では、施設内に青色や黄色の粘着トラップを設置して誘殺して密度の抑制を図るほか、薬剤防除時期の目安にします。

薬剤の選択は作期全般の総使用回数を考慮し、抵抗性害虫の出現を防ぐため、同一分類（コード）薬剤の連用は避けます。

表1 トマトとミニトマトにおける主要害虫の主な防除薬剤

（令和2年8月25日現在）

薬剤名	コナジラミ類	アザミウマ類	アブラムシ類	ハモグリバエ類	ハダニ類	トマトサビダニ	オオタバコガ	ハスモンヨトウ	希釈倍率	使用時期／使用回数	分類
ディアナSC	○	○		○			○	○	2,500倍 2,500～5,000倍	収穫前日まで／2回以内	5
スピノエース顆粒水和剤		○		○			○		5,000倍	収穫前日まで／2回以内	5
グレーシア乳剤	○	○		○ _{トマト}		○	○	○	2,000倍	収穫前日まで／2回以内	30
アニキ乳剤	○	○ _{ミカ}		○		○	○	○	1,000～2,000倍 2,000倍	収穫前日まで／3回以内	6
コロマイト乳剤	○			○		○			1,500倍	収穫前日まで／2回以内	6
ベストガード水溶剤	○	○	○						1,000～2,000倍	収穫前日まで／3回以内	4A
モスピラン顆粒水溶剤	○	○	○						2,000倍	収穫前日まで／3回以内	4A
ウララDF	○	○ _{ミカ}							2,000倍 2,000～4,000倍	収穫前日まで／3回以内	29
コルト顆粒水和剤	○		○						4,000倍	収穫前日まで／3回以内	9B
コテツフロアブル		○ _{ミカ}			○ _{ナミ}	○	○		2,000倍	収穫前日まで／3回以内	13
トランスフォームフロアブル	○		○			○			1,000～2,000倍 2,000倍	収穫前日まで／2回以内	4C
カスケード乳剤		○ _{ミカ}		○ _{トマト} ○ _{マメ}			○		2,000倍 2,000～4,000倍	収穫前日まで／（トマトは4回以内、ミニトマトは2回以内）	15
アタブロン乳剤	○ _{タバコ}					○		○	4,000倍 2,000倍	収穫前日まで／3回以内	15
プレオフロアブル				○			○	○	1,000倍	収穫前日まで／2回以内	un
フェニックス顆粒水和剤							○	○	2,000～4,000倍	収穫前日まで／2回以内	28
マイトコーネフロアブル					○	○			1,000倍	収穫前日まで／1回	20D

注) 1. 表中コナジラミ類欄のタバコはタバココナジラミ類、アザミウマ類欄のミカはミカンキイロアザミウマ、ハモグリバエ類欄のトマトはトマトハモグリバエ、マメはマメハモグリバエ、ハダニ類欄のナミはナミハダニの農薬登録です。

2. 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040